

悲しむ人々は

マタイによる福音書 5：1－4

ヨハネの黙示録 7：17

シラ書 44：9



司祭 ヨハネ 井田 泉

諸聖徒日

2025 年 11 月 2 日

上野聖ヨハネ教会墓地礼拝

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。」マタイによる福音書 5:1-2

イエスは群衆とともに山の上におられました。今わたしたちは、小高い丘の上に集まって、逝去者記念の礼拝を行っています。目には見えなくとも、わたしたちの間にイエスがおられます。

イエスは群衆を見ておられました。人々の深い悩みと悲しみを感じておられました。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」

5:3-4

こうイエスが言われたとき、イエスご自身も悲しみを心に抱えておられました。

今から約 100 年前、日本の植民地支配下にあった朝鮮に李^イ龍^{ヨンド}道という牧師がいました。彼が礼拝で説教壇に立っただけで、会衆は涙を流し、李龍道牧師も泣いたと伝えられています。そのように、語るイエスもそれを聞く人々も、悲しみを共にしていたに違いありません。

わたしたちの悲しみ、とりわけ大切な人を失った悲しみを、イエスと一緒に悲しんでくださるのです。

実は今日 11 月 2 日は、わたし自身が大切な 3 人の人を天に送った日です。40 年前に父を、5 年前にとっても信頼していたある若い司祭を、そして 1 年前には義理の妹を天に送りました。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」と言われるイエスさまだけはわかってくださる。イエスさまだけは一緒に泣いてくださる方なのです。

ここでイエスは、「その人たちは慰められる」と言われました。受け身で語られていて、だれがその人たちを慰めるのかは、ここでは直接語っておられません。

けれども今日聞いた使徒書、ヨハネの黙示録第 7 章がそれをはっきり告げています。

「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれる」

7:17

あの山の上でかつて「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」と語られたイエスが、今、先に召された人々の牧者となってくくださる。牧者イエスが彼らを命の水の泉へ導いてくださる。そして神が彼らの目から涙をことごとくぬぐってくださるのです。

今日の旧約聖書シラ書でこう言われていました。

「先祖たちの中には、後世に名を残し、輝かしく語り継がれている者のほかに、忘れ去られた者もある」 44:9

人は忘れ、人は忘れ去られてしまうかもしれない。しかし神様は覚えていてくださる。どの人のこともどの人のことも、大切に神様は記憶していてくださるのです。このことにわたしたちも慰めを得て、主の前に大切な方々を記念して祈りましょう。

(逝去者名簿朗読の後)

世にある人、世を去った人の主なる神よ、あなたは、主にあって死ぬ人は幸いである、と教えられました。どうか主を信じて世を去り、安らかな眠りに就いた僕らに豊かな祝福を与え、主が彼らのうちに始められた救いのみ業を、イエス・キリストの日に成就してください。天の父よ、今なお世にあって主に仕えるわたしたちにも恵みを与え、ついに彼らとともにみ国の世継ぎとしてください。救い主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

全能の神よ、あなたはみかたちに似せて人を造り、み子を人としてこの世に生まれさせ、皆ともに神の子として、まことの愛の交わりに生きる道を与えてくださいました。ことにわたしたちがみ前に覚える人々を通してその交わりが豊かにされたことを感謝いたします。どうかわたしたちの信仰と希望を強め、終りの日に彼らとともにみ国の永遠の喜びにあずかせてください。主のみ名によってお願いいたします。アーメン